

# 平成29年度 嶺北特別支援学校 学校関係者評価書

<p>(問)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校評価書の成果と課題は適切かどうか。</li><li>・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切かどうか。</li></ul>
<p>(意見を聞いた方)</p> <p>就労支援センターワークかすみ センター長 朝倉 昌弥 氏 福井県嶺北親の会 会長 田中 俊彦 氏 嶺北特別支援学校PTA 会長 金森 貴範 氏</p>
<p>(意見欄)</p> <p><b>1.教育課程・学習指導</b> 評価結果を見ると、教員は「B:概ね～」が高く次に「A:十分に～」となっている。保護者は逆に「A」が高く次に「B」となっている。保護者は良い評価をしているので、教員はもっとできているはず。教員がそう感じれば、やり甲斐につながるのではないかと思う。教員はもう少し気負うこと無くリラックスして、やり甲斐を感じる働き方をしてほしい。 学校評価は数値で語られるので、教員は良い評価を得るために様々な支援をしようとする。業務に追われて十分な打合せもできず、一人で悩むこともあるのではないかと懸念する。チームアプローチや情報の共有化はできているか。</p> <p><b>2.児童生徒指導</b> 体育館のリフレッシュ工事のため行事開催に制約があったが、体育大会を平日に行うなどの工夫をして実施できたことは良かった。</p> <p><b>3.保健指導・食育</b> 特になし。</p> <p><b>4.研究研修</b> 「研究研修」がまだまだ弱いという説明であったが、図書研究部が主となって教員研修を企画しているのか。図書研究部のメンバーは固定しているのか。他の部署に比べると、図書研究部は大変のように思う。</p> <p><b>5.家庭連携</b> 親子レクリエーションについて、外出や夏祭りなどいろいろなことを隔年で実施すると良い。バリエーションを多く持つことが必要である。 渉外部では、PTA行事と親の会行事を分担して行ってもらっている。共に充実した活動ができており、有り難いと感じている。 平成32年度に「福井県特別支援学校知的障害教育校PTA連合会」の事務局を担当することになっている。これまで会議に出席して感じることであるが、忌憚りの無い意見を求めると、話が段々エスカレートして行政等に対する不満など、あらぬ方向に行ってしまうことがある。このようなことが無いようにしたい。</p> <p><b>6.進路指導</b> 高等部3年生の進路先は、全員内定しているのか。</p> <p><b>7.特別支援教育</b> 特になし。</p> <p><b>8.情報公開</b> ホームページに行事の報告を載せるとき、事実だけでなく、児童生徒が書いた感想や絵画などの記事を書くと良い。児童生徒を参加させることが大事で、自分の記事が載ることで楽しみにつながり、ホームページを見ようとする動機付けとなる。</p> <p><b>9.寄宿舎生活</b> 寄宿舎には母親代わりになってもらい、本当によくお世話になった。母親が子どもを手放したくないので、入舎を拒むこともあるのではないかと。現在も、寄宿舎は作らないという話はあるのか。 寄宿舎では調理の指導もしているようで、施設利用者(本校卒業生)がレシピファイルを持って来ているので感心した。 寄宿舎の宿泊数を増やすと、その分施設サービスを利用する回数が減り、長期休業中の施設利用に制限が掛かることがあり、困っている。</p> <p><b>その他</b> 特になし。</p> <p>(学校関係者評価を踏まえた今後について) この学校関係者評価書に示されている内容やそれぞれの課題に対する対応を各校務部で検討し、次年度の教育目標の設定及び教育実践に生かしていく。更に、一定の評価を得ている項目・内容に関しては、その継続・強化を行うよう努める。</p>